

博物館だより

No.30

平成20年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

小笠原文庫展Ⅱ

— 絵図・地図が語る近世・近代 —

当館では、10月7日(火)から11月24日(月)まで企画展「小笠原文庫展Ⅱ」絵図・地図が語る近世・近代」を開催します。今回の企画展では、福岡県指定文化財「小笠原文庫」(育徳館高校錦陵同窓会所蔵)のうち、江戸時代から明治時代の絵図・地図にスポットを当て、文字だけでは分かりづらい歴史情報を「絵」や「かたち」で読み取っていただきたいと思っています。

■開催期間

10月7日(火)～11月24日(月)

■場 所

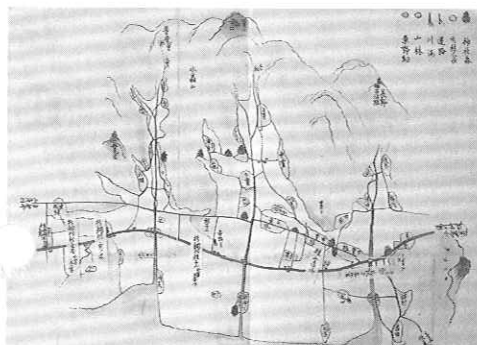
当館展示室

■観覧料

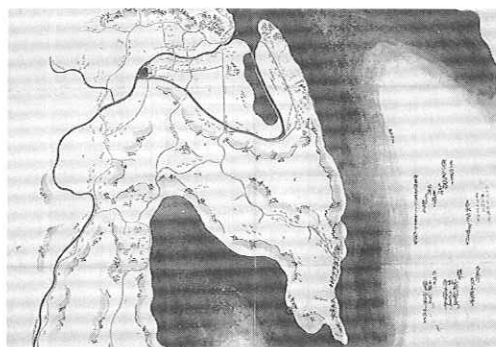
常設展の観覧料でご覧いただけます。

■展示品説明会

展示品説明会(ギャラリ―)



▲企救郡首根村・湯川村近辺図(幕末期)



▲江戸湾海防図(嘉永年間)

トーク)を次のとおり開催いたします。ぜひ、お集まりください(観覧料のみいただきます)。

- ・平成20年10月25日(土) 13時30分
- ・当館展示室にて

10月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

10月4日(土) 9時30分

【古文書講座】

10月11日(土) 10時00分

【金曜古文書講座】

10月24日(金) 10時00分

【みやこ学講座】

10月25日(土) 9時00分

【古典かな講座】

10月25日(土) 9時30分

博物館友の会 バスハイクのお知らせ

博物館友の会では、次のとおり「史跡散策バスハイク」を実施します。今回は紅葉の糸島地方を訪ね、史跡や博物館などをめぐります。ぜひ、ご参加ください。なお、参加者は友の会会員に限りませんが、友の会には随時入会できます。

■実施日

平成20年11月23日(祝)

■内容 雷山千如寺、伊都国歴史博物館等、晩秋の糸島地方を訪ねます。

■参加費 3000円

■申し込み先

博物館内友の会事務局まで、電話にてお申し込みください。

☎3314666

博物館友の会会員募集

博物館友の会は、「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」を合言葉に、講演会やバスハイク、史跡めぐりなど様々な文化事業を行っている独立採算の団体です。

ぜひ、ご入会ください。

■入会方法

博物館窓口にて会費を納めてください。

■年会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

※年度途中から入会される方は月割り会費をいただきます。

《古文書解読コーナー》

①

医判

② 〈ヒント〉無〇〇無欠勤

五徳

③ 〈ヒント〉〇〇相手。〇〇に乗る。

俣

④ 〈ヒント〉図形、文様。ありさま。

寄

⑤ 〈ヒント〉とりみち

密封

〈ヒント〉受け答え

◎答え

(反対向きに見てください)

- ① 通運
- ② 対応
- ③ 模範
- ④ 刻
- ⑤ 対

みやこの歴史発見伝 19

屋根裏からのメッセージ

「俵の中の「お札」が語るムラ人たちの「祈り」

きつかけは一本の電話から

平成19年秋、ダム建設に伴い水没する民家の解体工事が慌しく進む伊良原地区から一本の電話が博物館に寄せられました。

「家を壊してたらお札の詰った古い俵が出てきたんだけどいいりませんか？汚いんで焼こうと思ってるんだけど…」それを聞いたスタッフは思わずこう返事をしていました「今から引取りに行きますから絶対焼かないで下さい！！！」

スタッフが泡を食って返事をした背景には次のような理由があります。すなわち、古い民家には古くなったお札を俵に詰め「火災よけ」のお守りとして屋根裏に吊すものがあり、もしそうであれば貴重な民俗資料であること（Ⅱ家の解体とともに燃やされること）が殆ど残りにくい資料、それらの多くは江戸時代に遡るものが多い（Ⅲ最近では滅多に出ない資料となりまして、みやこ町では未発見の「幻の資料」である、といったことなどです。

果たして現地へ行くと、その



▲発見された俵のうちの一つ。真っ黒に煤けている

俵はごみを焼く焚火のそばに置かれており、まさに危機一髪の状態でしたが、所有者から快く寄贈を受けることができ、晴れて博物館に「家宝」として迎えることとなりました。

俵は全部で三つありましたが、永年の炊事や焚火等による燻しで真っ黒にすすけマスクなしでは触れないような状態でした。これでは持ち主もごみとも燃やしてしまうのも当然かと思いましたが、それでも中身は家宝と思ひ直し、この内の一つを試しに解体し中身を調査して

俵内の「お札」の発行社寺別一覧表

範囲	国郡村名	発行社寺等	社寺別	お札の規格					小計	総計	占有率(%)		備考	
				大	中	小	極小	その他			社寺別	範囲別		
地元・近隣	村内	下伊良原	大行車社	○	4	2			1	4	4	2	2	現高木神社
		横瀬(帆柱)	蔵持山	◎	4	3			3	10	6	4	54	
			英彦山	◎	3	1	1		1	6	2	2		
		豊前坊		1	3				4	2	2			
遠	郡内	下原	天八幡社	○		4			4					
		今井	今井祇園社	○	38		30		68		40			
		田上	香春宮	○		3	1		4	26	2	2	16	
		上毛	松尾山	◎		3			3	2	2			
隔地	豊前国内	上宇	宇佐八幡宮	○	4			3	7	5	7			
		出雲	出雲大社	○		2			2	29	1	17		
		伊勢	伊勢太神宮	○		1		14	15	1	9			
		山城	稲荷大明神	○		2			2	1	1			
		山城	天社神道	■		6			6	4	4			陰陽道系
		山紀	高野山	●	1	1			2	1	1			
その他		陸奥	伊馳見明神	○		2			2		1		現伊佐須美神社	
		大仙	坊明類	■	4				4	19	2	11	地神祈禱	
総合計				65	48	32	1	59	202	170	100	100	包装紙他	

注「社寺別」の凡例は次のとおり ○神社 ●寺院 ◎修験 ■その他(陰陽道・地神盲僧など)

で、その足跡が山里の奥深くにまで及んでいくことを示しています。次に注目されるのは、地元系社寺への尊崇は英彦山系霊山と今井祇園に集中していること、両者は現在も現地で祭座もたれて信仰が維持され、田植の際には水を乞い、水を汚すことを詫びるとい、ムラ人ならではの願いや想いが濃厚に反映されている様子をうかがうことができます。

みました。すると出るわ出るわ、真っ黒な俵の中からは江戸時代後期のものとみられる各地の社寺が発行したさまざまな種類のお札類が次々と見つかりました。これらの分析で当時の人々の生活文化、とくに信仰という「こころ」の分野についての説明が進むため、古いお札の束といっても決しておろそかにはできないものです。以下に調査成果の概要を紹介し、あわせて現時点で考えられる資料の性格や傾向などについてご説明しましょう。

「いお札が語るもの」総数200を超えるお札類を分析してみると次のようなことがわかってきました。まずお札の発行主体ですが、地元系の社寺はもちろんなのと遠く陸奥国(福島県など)のものまであるということ(表参照)。これはこの家の人々が出て入ったというより、江戸時代当時、大社寺に所属して諸国を巡り布教する様々な宗教者(伊勢や出雲の御師、高野聖など)がいましたが、彼らによ

このほか明治以降製作されなくなった蔵持山の「午王宝印」と呼ばれるお札、盲僧によるとみられる籠や屋敷祓をした際のお札、病気封じのお守りや縁起物の絵札等も見つかりました。また、御師らが宿主への土産に持参したとみられる葉や紙・扇・白粉などの包み紙もあり、これらの品々は、御師らの土産話とともにムラ人との交流に花を添えたことでしょう。こうしてみると煤けた俵一つにも様々な情報が含まれていることがわかります。(木村達美)



▲お札の一部(左:神宮大麻・蔵持山札・豊前坊札、右:蔵徳神)